現代日本語のアクセントのゆれと平板化現象
－『電子ブック版 大辞林』を資料として－

The Accent-Fluctuation in Modern Standard Japanese

栗林　均
Hitoshi KURIBAYASHI

日本大学
Nihon University

Email: hkuri@chs.nihon-u.ac.jp

〒156　東京都世田谷区桜上水３丁目 25－40
25－40, Sakura-josui 3-chome, Setagaya-ku, 156

１．資料と手順

この研究は，現代の日本語（共通語）におけるアクセントの「型」を巨視的な観点から分析しようとするものである。

ここでは三省堂の大型国語辞典『大辞林』（初版）の電子ブック版をもとに，見出し語とそれに付されているアクセント表記を抽出して現代日本語（共通語）のアクセントの基本データとしている。

『大辞林』ではアクセントの型が [0][1][2][3]...のような数字で表されており，これは「アクセントの滝（高い拍から低い拍への移り目）」が語頭から数えて何拍目にあるかを示している。[1]は「アクセントの滝」が語の１拍目にあり，[2]は２拍目に，[3]は３拍目にあることを示している。[0]は「アクセントの滝」をもたない型であることを示している。（なお，「拍」はかな１文字に相当する単位。）

『電子ブック版 大辞林』から抽出されたのは，14万756語の見出し語と品詞情報，およびそのアクセント・データである。得られた電子化データは，まず形容詞，動詞，名詞といった主要な品詞に分けた上で，それらすべての語を拍数（１拍語，２拍語，３拍語．．．）ごとにまとめ，それぞれの拍数の語においてどの型のアクセントがどのように分布しているかを調査・分析した。

調査・分析の手順と結果の概要については，昨年のシンポジウム「人文科学における数量的分析」における発表で述べ，さらに拙論「現代日本語のアクセントの型の分布－『電子ブック版 大辞林』を資料として－」（日本大学文理学部人文科学研究所『研究紀要』第51号，1-28頁，平成８年３月）に詳しく記してあるので，ここで再説することはしないが，今回の研究の基盤としてそちらも参照いただければ幸いである。

なお，『電子ブック版 大辞林』は，1988年発行の『大辞林』初版を電子化したものであるが，その後1995年には『大辞林』第２版が刊行されており，それをもとにして平成８年11月には『三省堂 スーパー大辞林』と題

するCD-ROM版が発売された。筆者は，このCD-ROM版についてもアクセント・データを電子化テキストとして抽出する作業を完了し，同様の分析を行っている。ただ，今回の研究に際しては，全体との割合等，上掲の資料と比較してのべる方が混乱が少ないとの判断から，すでに発表したものと同じアクセント資料を用いることとした。敢えてつけ加えれば，以下に述べる結果に関しては，個々の数字は異なるものの，両者の間に大きな違いは存在しない，ということを確認している。

2．アクセントの「ゆれ」

『大辞林』の見出し語の中には，アクセントの表記として２つあるいはそれ以上記されているものがある。それらは，場合によっていずれのアクセントの型で発音されることもありうるもので，たとえば次のような語にみられる。

２拍語
くま【熊】 [2][1]
ごま【護摩】 [0][1]
さじ【匙】 [1][2]
・・・
３拍語
あとち【跡地】 [0][2]
えじき【餌食】 [1][0]
かたな【刀】 [3][2]
きせつ【季節】 [2][1]
・・・
４拍語
あさいち【朝市】 [2][3]
かみそり【剃刀】 [3][4]
テキスト【text】 [1][2]
はらわた【腸】 [3][0][4]
・・・
５拍語
いいんかい【委員会】 [2][0]
かげぼうし 【影法師】 [3][1]
ダンプカー [3][4]
きょうしゅうじょ【教習所】 [5][0]
・・・

ここでは，こうした現象をアクセントの「ゆれ」とよび，以下ではその実態を検討する。なお，「ゆれ」はアクセントの型を並べることによって表すことにすが，その際，並べ方の順序は意味を持たないものとして扱う。つまり，[1][3]と[3][1]とは同じものを表すものとして扱っている。（これは，それらを別のものとして分析した結果，そこに有意味な違いが見られなかったためである。）

また，アクセントの中で[0]の型は伝統的に「平板式」と呼ばれている。それ以外の型は「起伏式」と呼ぶが，最近の若者言葉の特徴として元来「起伏式」のアクセントで発音されていたものが一律に「平板式」アクセントで発音されるという現象が指摘されている。これをアクセントの「平板化」現象と呼んでいるが，これも「ゆれ」の現象の一つに数えられる。

3．「ゆれ」の実際

『電子ブック版 大辞林』から抽出した，アクセント・データ14万756語のうち，名詞は12万8,994語を数える。これらは拍数によって，１拍のものから20拍のものまでに分類される。ここでは２拍から７拍までの名詞における「ゆれ」の実際を拍ごとに検討する。

(1) ２拍の名詞におけるアクセントのゆれ

２拍の名詞は5,303語を数える。そのうち，２つのアクセントをもつものは，それぞれのアクセントを１回として数えて，アクセントの型の分布を見ると次のようになる。

型	[0]	[1]	[2]
語数	665	4304	802
百分率	12	75	14

２拍の名詞では，アクセントの滝が第１拍にあるもの（[1]型）は4,304語で全体の約75%を占め，アクセントの滝をもたないもの（[0]型）は12%，アクセントの滝が第２拍に来るもの（[2]型）は14%となっている。

このうち，２つのアクセントをもつものを抽出すると456語ある。そして，それらの語がどのアクセントの型を共有しているのかを数えると，次のとおりである。

型	語数	割合（%）
[0][1]	117	26
[0][2]	66	14
[1][2]	273	60

２拍の名詞の中では，[1]と[2]の「ゆれ」が抜きんでて多いことが見て取れる。[1][2]の273語は，先に見た[2]の型の名詞802語のうちに含まれているものであるが，これはそのうちの34%に相当する数字である。つまり，[2]の型の名詞のうちの約３分の１は[1]の型としても発音されているということであり，純粋に[2]の型だけしかもたないもの（529語）は，全体（5,303語）の約１割（10%）に過ぎないということが分かる。

これと同じことは，[0][1]の「ゆれ」についてもいうことができる。[0][1]の117語は[1]の型の名詞665語のうちに含まれているが，これはそのうちの約18%に相当する。そして純粋に[0]の型しかもたないもの（548語）は，全体のやはり約１割（10%）に過ぎない。２拍語の名詞における「ゆれ」の実態は，[1]の型が量的に優勢であることから，その類推によるもの，あるいは[1]の型の実現が何らかの原因で妨げられているものが含まれていると見なすことができる。

(2) ３拍の名詞におけるアクセントのゆれ

３拍の名詞は総計25,535語である。このうち２つ（以上）のアクセントをもつものを別のアクセントをもつものとして数えてアクセントの型の分布を見ると次のようになる。

型	[0]	[1]	[2]	[3]
語数	14038	11970	1625	1120
百分率	49	42	6	4

このうち，２つ以上のアクセントをもつものは3197語ある。これらがどのようなアクセントの型に属するかをみると，次の通りである。

型	語数	割合（%）
[0][1]	2002	62
[0][2]	398	12
[0][3]	497	16
[1][2]	191	6
[1][3]	49	2
[2][3]	57	2

ここで圧倒的な多数を占めているのは [0][1]の「ゆれ」である。３拍語における[0]の型と[1]の型はともに全体を２分する優勢な型であり，それぞれにおける「ゆれ」の型の占める割合は，14%と17%であり，それほど大きな違いがあるわけではない。そこで，アクセントの「ゆれ」をもつ語に，どの型が含まれているかを計算してみる。

[0]の型を含むもの（[0][1],[0][2],[0][3]）の合計：2897語（90%）
[1]の型を含むもの（[0][1],[1][2],[1][3]）の合計：2242語（70%）
[2]の型を含むもの（[0][2],[1][2],[2][3]）の合計： 646語（20%）
[3]の型を含むもの（[0][3],[1][3],[2][3]）の合計： 603語（20%）

これでみると，[2]の型や[3]の型は，[1]の型との間で「ゆれ」るよりも[0]の型との間で「ゆれ」ていることが見て取れる。こうして３拍語の場合には，[0]の型が優勢な勢力を占めており，アクセントの「ゆれ」は優勢な[0]の型に対する類推の現象，もしくは優勢な[0]の型の実現が何らかの原因で妨げられているものが含まれていると推定することができる。

(3) ４拍の名詞におけるアクセントのゆれ

名詞のなかでは，４拍のものが最も多く45,047語を数える。そのうち２つ（以上）のアクセントをもつものをそれぞれ別のアクセ

アクセントをもつものをそれぞれ別のアクセントをもつものとして数えてアクセントの型の分布を見ると次のようになる。

型	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]
語数	35988	3718	6076	3101	1007
百分率	72	7	12	6	2

一瞥して明らかなように，４拍の名詞ではアクセントの滝をもたない[0]の型が圧倒的な多数を占めている。

さらに，それらの中から２つ（以上）のアクセントを有するものを抽出すると，4,807語あり，その内訳は次のようになっている。

型	語数	割合（%）
[0][1]	1118	23
[0][2]	1327	28
[0][3]	1010	21
[0][4]	670	14
[1][2]	189	4
[1][3]	65	1
[1][4]	7	0
[2][3]	192	4
[2][4]	39	1
[3][4]	190	4

この場合，特に突出していると言えるものは見当たらないが，注目するべきは，[0]の型を含むタイプが圧倒的に多いことである。

[0]の型を含むもの（[0][1],[0][2],[0][3],[0][4]）の合計：4125語（86%）

[1]の型を含むもの（[0][1],[1][2],[1][3],[1][4]）の合計：1379語（28%）

[2]の型を含むもの（[0][2],[1][2],[2][3],[2][4]）の合計：1747語（37%）

[3]の型を含むもの（[0][3],[1][3],[2][3],[3][4]）の合計：1457語（27%）

[4]の型を含むもの（[0][4],[1][4],[2][4],[3][4]）の合計： 906語（19%）

４拍の名詞のアクセントの「ゆれ」は多数を占める[0]の型に対する類推の進行と見なすことができる。これは，３拍語の場合以上に顕著であり，アクセントの「平板化」現象と連動していると考えられる。つまりアクセントの平板化現象は，特異な現象でなく，こうした現象に支えられた一つの流れに沿ったものと見なすことができる。

(4) ５拍の名詞におけるアクセントのゆれ

５拍の名詞は総計19,387語であり，そのうち２つ以上のアクセントをもつものを別のアクセントをもつものとして数えてアクセントの型の分布を示したのが下の表である。

型	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]
語数	5033	518	2358	11285	1682	336
百分率	24	2	11	53	8	2

５拍以上の名詞については，昨年度の分析で示したように，アクセントの滝が「語末から数えて３拍目」に際立っていることを確認することができる。

これらの中で，２つ以上のアクセントを有するものは1,855語あり，それらがどのようなアクセントの型をもっているかは次の通りである。

型	語数	割合（%）
[0][1]	25	1
[0][2]	179	10
[0][3]	697	37
[0][4]	71	4
[0][5]	194	11
[1][2]	12	1
[1][3]	106	6
[1][4]	4	0
[1][5]	6	0
[2][3]	158	9
[2][4]	26	1
[2][5]	6	0
[3][4]	327	18
[3][5]	22	1
[4][5]	22	1

上の表から一見して[0][3]の型が多いことは明らかであるが，さらにそれぞれの型がどのくらい含まれているかをまとめてみると，はっきりした傾向を認めることができる。

[0]の型を含むもの（[0][1],[0][2],[0][3],[0][4],[0][5]）の合計：1166語（63%）
[1]の型を含むもの（[0][1],[1][2],[1][3],[1][4],[1][5]）の合計： 153語（ 8%）
[2]の型を含むもの（[0][2],[1][2],[2][3],[2][4],[2][5]）の合計： 381語（21%）
[3]の型を含むもの（[0][3],[1][3],[2][3],[3][4],[3][5]）の合計：1310語（71%）
[4]の型を含むもの（[0][4],[1][4],[2][4],[3][4],[4][5]）の合計： 450語（24%）
[5]の型を含むもの（[0][5],[1][5],[2][5],[3][5],[4][5]）の合計： 250語（13%）

これにより，[0]の型と[3]の型が全体の中で双璧をなしていることは明らかである。アクセントの「平板化」は，このように3拍，4拍，5拍の名詞において実際に進行していると同時に，あたらしく受け入れられる素地ができているものと考えられる。

6拍以上の名詞は，基本的に5拍語の場合と同様な傾向が認められる。つまり語末から数えて3拍目の優勢と，それの一つ前の拍へのスライド，[0]の型が少なからぬ割合を占めている，といったことである。

次に6拍語と7拍語の数字を掲げておく。

(5) 6拍の名詞におけるアクセントのゆれ

6拍語の名詞は総数15,952語である。このうち2つ（以上）のアクセントをもつものをそれぞれ別のアクセントをもつものとして数えてアクセントの型の分布を示すと次の通りである。

型	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]
語数	3153	290	180	5478	6597	1239	132
百分率	18	2	1	32	39	7	1

これらの中で，2つ（以上）のアクセントを有するものは1,190語あり，それらがどのようなアクセントの型をもっているかをみると次の通りである。

型	語数	割合（%）
[0][1]	10	1
[0][2]	15	1
[0][3]	278	23
[0][4]	222	19
[0][5]	12	1
[0][6]	47	4
[1][2]	7	1
[1][3]	16	1
[1][4]	25	2
[1][5]	1	0
[1][6]	1	0
[2][3]	8	1
[2][4]	26	2
[2][5]	3	0
[2][6]	0	0
[3][4]	324	28
[3][5]	47	4
[3][6]	2	0
[4][5]	126	11
[4][6]	3	0
[5][6]	17	1

それぞれの型がどのくらい含まれているかをまとめてみると，次のようになる。

[0]の型を含むものの合計：584語（49%）
[1]の型を含むものの合計： 60語（14%）
[2]の型を含むものの合計： 59語（ 5%）
[3]の型を含むものの合計：675語（57%）
[4]の型を含むものの合計：726語（62%）
[5]の型を含むものの合計：206語（26%）
[6]の型を含むものの合計： 70語（ 5%）

終わりから3拍目[4]と，さらに一つ前の拍[3]へのスライド，さらに[0]の型が一定の割合を占めていることを確認することができる。

(6) 7拍の名詞におけるアクセントのゆれ

7拍語の名詞は総数8,883語である。このうち2つ（以上）のアクセントをもつものを

別のアクセントをもつものとして数えてアクセントの型の分布を示すと次の通りである。

型	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]
語数	513	291	52	58	2778	5081	436	17
百分率	6	3	1	1	30	55	5	0

これらの中で，２つ（以上）のアクセントを有するものは406語あり，それらがどのようなアクセントの型をもっているかをみると次の通りである。

型	語数	割合（%）
[0][1]	28	7
[0][2]	4	1
[0][3]	5	1
[0][4]	36	9
[0][5]	75	19
[0][6]	3	1
[0][7]	6	1
[1][2]	5	1
[1][3]	1	0
[1][4]	17	4
[1][5]	3	1
[1][6]	1	0
[1][7]	0	0
[2][3]	0	0
[2][4]	0	0
[2][5]	1	0
[2][6]	0	0
[2][7]	0	0
[3][4]	1	0
[3][5]	2	1
[3][6]	0	0
[3][7]	0	0
[4][5]	63	16
[4][6]	10	2
[4][7]	0	0
[5][6]	145	36
[5][7]	0	0
[6][7]	0	0

それぞれの型がどのくらい含まれているかをまとめてみると，次の通りである。

[0]の型を含むものの合計：157語（39%）
[1]の型を含むものの合計： 55語（13%）
[2]の型を含むものの合計： 10語（ 2%）
[3]の型を含むものの合計： 9語（ 2%）
[4]の型を含むものの合計：117語（31%）
[5]の型を含むものの合計：289語（73%）
[6]の型を含むものの合計：159語（39%）
[7]の型を含むものの合計： 6語（ 1%）

ここでも，５拍語，６拍語と同様，終わりから３拍目[5]と，さらに一つ前の拍[4]へのスライド，さらに[0]の型が一定の割合を占めていることを確認することができる。

*　　*　　*